

鳥取県病原微生物検出情報

(令和7年3月検出分 検体採取 令和7年1,2,3月)

令和7年4月18日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体2件（検体採取2月下旬、3月上旬）について検査を実施したところ、A(H1)pdm09が1件、A(H3)が1件検出された。

表1 2024/2025 シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別					備考
年	月日			A(H1)pdm09	A H3型	B victoria	B 山形	B 系統不明	
2024	9月3日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月6日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月14日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月15日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月19日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月27日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月2日	中部	2	2	0	0	0	0	
	12月3日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月9日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月16日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月18日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月19日	東部	1	1	0	0	0	0	
	12月20日	東部	1	1	0	0	0	0	
	12月20日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月23日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月24日	東部	1	1	0	0	0	0	
12月24日	中部	1	1	0	0	0	0		
2025	1月6日	西部	1	1	0	0	0	0	
	1月15日	西部	1	1	0	0	0	0	
	1月16日	中部	1	1	0	0	0	0	
	1月21日	西部	1	1	0	0	0	0	
	1月27日	西部	1	1	0	0	0	0	
	2月5日	西部	1	1	0	0	0	0	
	2月12日	西部	1	1	0	0	0	0	
	2月26日	西部	1	0	1	0	0	0	
3月3日	西部	1	1	0	0	0	0		
病原体定点PCR検査合計 (2024/9/2~現在)			27	26	1	0	0	0	

国立健康危機管理研究機構の病原微生物検出情報（4月3日作成）によると、全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、2024/25 シーズンはA(H1)pdm09型が最も多く検出されており、次いでA(H3)型が検出されている。

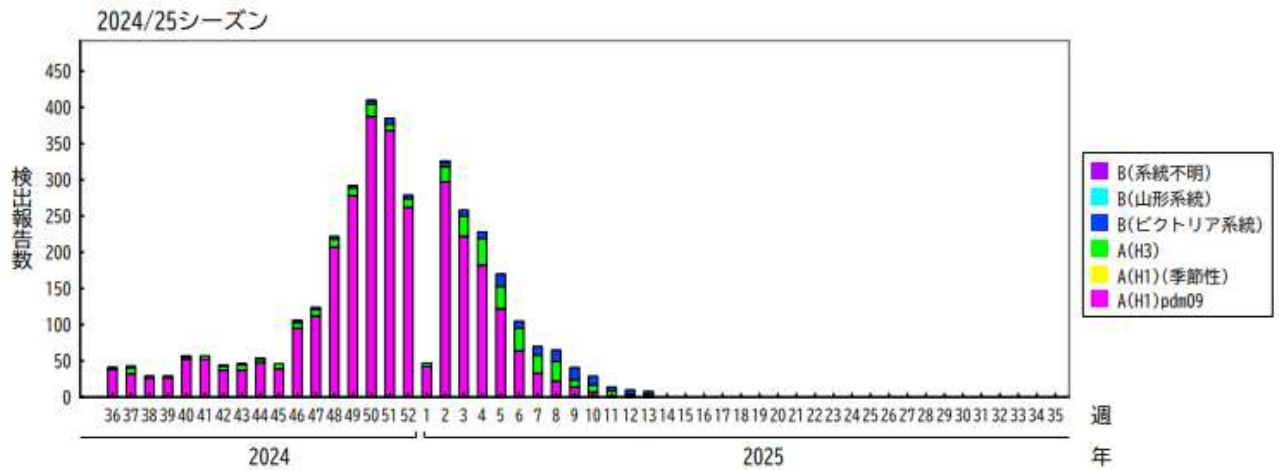


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（2024/25 シーズン）

出典：国立健康危機管理研究機構病原微生物検出情報（2025年4月3日作成）

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の5件について検査を行ったところ、サポウイルスが2件、ノロウイルスG2が1件検出された。他の2件からはノロウイルス、サポウイルス、A群ロタウイルス、C群ロタウイルス、アデノウイルス（40/41型）及びアストロウイルスいずれも検出されなかった。

3 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体2件（同一患者 検体：咽頭ぬぐい液、便）についてアデノウイルス、エンテロウイルス、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルス1～7の検査を実施したところ、原因となるウイルスは検出されなかった。

4 細菌性髄膜炎

臨床診断名が細菌性髄膜炎の検体2件（同一患者[新生児] 検体：菌株（血液培養、髄液培養））について検査を行ったところ、B群レンサ球菌（*Streptococcus agalactiae*）が両検体から検出された。細菌性髄膜炎の原因菌は多種類あり、年齢や基礎疾患によって特徴があるとされている。新生児では、B群レンサ球菌、大腸菌、黄色ブドウ球菌、リステリア菌などが代表的な原因菌として挙げられる。